

いしかわ道徳 公開研究発表会（11月21日）を終えて

〇2年

あたたかい心 「くりのみ」 親切、思いやり

きつねとうさぎが冬支度のために、食べ物を探しに行きました。たくさんの食べ物を見付け、自分がたくさん食べられるようにかくし、「見付からなかった」と嘘をつくきつねに対し、うさぎは自分の分が少なくなるのにもかわらず、きつねに食べ物を分け与えます。そんなうさぎの親切にふれ、きつねは涙を流すお話です。

食べ物を分け与えたうさぎの気持ちと、涙を流したときのきつねの気持ちを考え、ペアで役割演技を行いました。うさぎやきつねになりきって気持ちを考えながら、多くの友達と進んで交流することで、様々な考えに触れることができました。

自分を見つめる際には、今までの生活経験を話したり、親切にするよさを感じたり、自分もこれまでに親切にできていたことを実感したりしながら、親切にしたいという思いをもっていました。



〇4年

正直に生きる「新次のしょうぎ」 正直、誠実

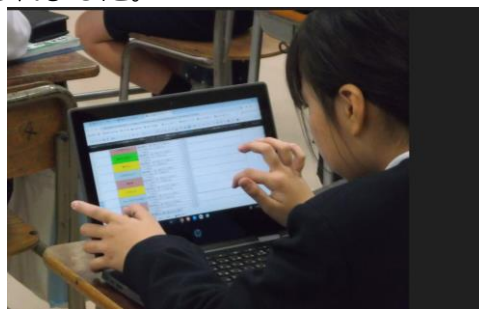
「新次のしょうぎ」

伊三郎おじさんと将棋をしている新次が、どうしても将棋に勝ちたいという思いから、おじさんが席を離れたときに新次が自分の駒を動かす、不正をして勝ちます。その後、新次は不正をしたと気付かれないよう行動する中で、自信が行った過ちに後ろめたさや苦しさを感ずき、後悔から涙を流す話です。

新次の心に悪魔のかげがさした時やずるをして勝った時の新次の気持ちについて話し合った後、雨の中を涙を流しながら帰っているときの新次の気持ちについて友だちと考えの交流をしました。

ICTを活用して、新次の気持ちを表情カードで表して、そのカードをもとに自分の考えと似ているところや違うところに意識しながら友だちと交流することで、自分だけでは思いつかなかった気持ちに気付くことができるなど、多様な考え方に接することができました。

最後に自分を見つめる際には、今までの自分の生活を振り返ったり、正直でいるよさについて大切だと思ったことやこれからの思いについて深く考えたりする姿が見られました。



〇6年

誠実な心 「手品師」 誠実、正直

「手品師」

腕はいいがあまり売れない手品師が、大劇場のステージに立てるチャンスを断り、一人の男の子に手品をする約束を守ったお話です。手品師は、大劇場で手品をしたいという気持ちと、男の子との約束を守ろうとする気持ちで迷いに迷います。手品師の心の葛藤を捉えることで、誠実に生きることの難しさや、それでも男の子との約束を守ろうとした手品師の誠実さに触れることができるよう授業を行いました。

子どもたちが「誠実」に生きることや、誠実に生きるよさをどのように捉えているのか、事前にアンケートを取りました。その結果、児童は誠実に生きることで、周りの人から信頼されることや、人間関係が良くなるという考えをもっていました。誠実に生きることが周りからの信頼だけでなく、正直に生きる自分自身への誇りや自信につながることに気付くことができるように授業を考え実践しました。

考えをもつ場面では、児童がグループで交流することを選択して、活発に話し合いが行われました。手品師がどうして男の子との約束を守ったのか、交流する中で多様な考えを出し合う姿が見られました。

